

太政官日誌明治九年第七十四號

○十月十一日

(達書)

太政大臣 三條 實美  
從一位

所藏ノ小銃彈藥千四百拾八發火藥貳拾壹貫目雷管六千發陸軍省へ獻納候段奇特ノ事ニ候依テ爲其賞別紙目錄ノ通下賜候事 目錄木盃一個

○

陸軍大尉 賢英  
正七位

自譯ノ乘馬及馬之教馴法五拾部陸軍省へ獻納候段奇特ニ候事

○

陸軍大尉 市川 易繼  
正七位

所藏ノスペンセル銃壹挺彈屬具共陸軍省へ獻納候段奇特ノ事ニ候依テ爲其賞別紙目錄ノ通下賜候事 目錄木盃一個

○

營繕寮六等 羽田 均  
出仕正七位

所藏ノヒストール銃壹挺コツトル銃壹挺同彈藥百七拾三發陸軍省へ  
獻納候段奇特ニ候事

○ 三等協修 藤川 三溪

所藏ノエンホール銃二挺震遠砲壹門陸軍省へ獻納候段奇特ノ事ニ候  
依テ爲其賞別紙目錄之通下賜候事 目錄木盃一個

○ 東京府

其府士族伊東邦儀所藏ノエンホール銃壹挺陸軍省へ獻納候段奇特ニ  
候條此旨可相達事

○ 島根縣

其縣士族石河正養所藏ノエンホール銃壹挺以下同文

任東京府參事

東京府權參事從六位 千田 貞曉

任東京府權參事

租稅權助兼地租改正局六等出仕從六位 宍戶 昌

○十月十二日

(第百貳拾五號布告) 輪廓附

明治六年二月第六拾四號布告皇族大禮服制別冊圖式ノ通改正候條此旨

布告候事

別冊略之

(第九拾六號達書) 同 院 省 使 廳 府 縣

正院中賞勳事務局ヲ置キ職員左ノ通被定候條此旨相達候事

長官 一員

副長官 一員

議定官

主事	一員	四等相當
一等秘書官		五等相當
二等秘書官		六等相當
一級秘書		八等相當
二級秘書		九等相當
三級秘書		十等相當
○		
兼任賞勳事務局局長官	兼工部卿法制局長官如故	參議兼工部卿法制局長官正四位 伊東博文
(番外達書)		
院	省	使
廳	府	縣
參議兼工部卿法制局長官正四位 伊藤博文		
兼任賞勳事務局局長官	兼工部卿法制局長官如故	

右ノ通本日 宣下相成候條此旨相達候事

○十月十三日

(第百貳拾六號布告) 翰廓附

本年<sup>七</sup>第百四號布告再犯加等罪例條例左ノ通改正候條此旨布告候事

再犯加等罪例條例

凡初犯再犯各盜罪ヲ犯シ己ニ斷決ヲ經テ又盜罪ヲ犯ス者ハ其輕キ  
所ノ盜罪三犯ヲ以テ論ス若シ後犯ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス假  
令ハ初犯竊盜再犯強盜ニシテ三犯監守盜ナル者ハ竊盜三犯ヲ以テ  
論シ初犯竊盜ニシテ再犯三犯強盜ナル者ハ強盜再犯ヲ以テ論スル  
ノ類

(達書)

法制局主事井上

毅

依願瀛船衝突事件審判被免候事

○十月十四日

(第百貳拾七號布告) 輪廓附

今般朝鮮國ト修好條規附錄并貿易規則別紙ノ通結約相成候條此旨布告候事

脩好條規附錄

日本國政府曩ニ特命全權辨理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黒田清隆特命副全權辨理大臣議官井上馨ヲシテ朝鮮國江華府ニ詣ラシメ同國政府ハ大官判中樞府事申臆副官都摠府副摠管尹滋承ニ委任シ日本曆明治九年二月二十六日朝鮮曆丙子年二月初二日雙方互ニ調印シタル脩好條規第十一款ノ旨趣ニ從ヒ日本國政府ハ理事官外務

大丞官本小一ニ委任シ朝鮮國京城ニ詣リ朝鮮國政府ハ講修官議政府堂上趙寅熙ニ委任シ相會同シテ議立スル條款左ニ開列ス

第一款

嗣後各港口駐留日本國人民管理官朝鮮國沿海地方ニ於テ日本國ノ諸船困難ニ遭ヒ緊急ナリト聞クトキハ地方官ニ告ケ該地ニ到ル道路ヲ經過スルヲ得ヘシ

第二款

嗣後使臣及管理官ヨリ各所へ通スル送文ハ自費ヲ以テ郵送スルモ或ハ該國人民ヲ雇ヒ專差スルモ各其便ニ從フヘシ

第三款

議定シタル朝鮮國通商各港ニ在リテ日本國人民地基ヲ租賃シ住居

スルハ各其地主ト相議シテ價ヲ定ムヘシ朝鮮國政府ニ屬スル地ハ  
 朝鮮國人民ヨリ官ニ納ルト同一ノ租額ヲ出シテ住居スヘシ釜山草  
 梁項日本公館ニハ從前同國政府ヨリ守門設門ヲ設ケシカ今後之ヲ  
 廢撤シ一ニ新定ノ程限ニ依リ標ヲ界上ニ立ツヘシ他ノ二港モ亦此  
 例ヲ照ス

#### 第四款

嗣後釜山港ニ於テ日本國人民行歩ヲ得ヘキ道路ノ里程ハ波戶場ヨ  
 リ起算シテ東西南北各直徑十里朝鮮里法ニ依ルト定ム東萊府中ニ至テハ  
 里程外ニ在リト雖モ特ニ往來ヲ爲ス此里程内ニ於テ日本國人民隨  
 意行歩シ其地ノ物産及日本國物産ヲ賣買スルヲ得ヘシ

#### 第五款



議定シタル朝鮮國各港ニ於テ日本國人民ハ朝鮮國人民ヲ賃雇スルヲ得ヘシ朝鮮國人民其政府ノ許可ヲ得ハ日本國ニ來ルモ妨無シ

#### 第六款

議定シタル朝鮮國各港ニ於テ日本國人民若シ死去シタル時ハ適宜ノ地處ヲ選ミ埋葬スルヲ得ヘシ但他ノ二港ノ埋葬地ハ釜山埋葬地ノ遠近ノ例ニ依ル

#### 第七款

日本國人民日本國ノ諸貨幣ヲ以テ朝鮮國人民ノ所有物ト交換シ得ヘシ又朝鮮國人民ハ交換シ買得タル日本國ノ諸貨幣ヲ以テ日本國ノ諸貨物ヲ買入ル、爲メ朝鮮國指定ノ諸港ニテハ人民相互ニ通用スルヲ得ヘシ

日本國人民ハ朝鮮國銅貨幣ヲ使用運輸スルヲ得ヘシ兩國人民私ニ  
錢貨ヲ鑄造スル者アレハ各其國ノ法律ニ照シテ處斷スヘシ

第八款

朝鮮國人民日本國人民ヨリ買得タル貨物或ハ贈與ヲ受タル諸物品  
ハ隨意使用シテ妨無シ

第九款

脩好條規第七款ニ載スル旨趣ニ從ヒ日本國測量船小船ヲ放チ朝鮮  
國沿海ヲ測量スル時或ハ風雨ニ逢ヒ或ハ干潮ノ爲メ本船ニ歸ル能  
ハサル時ハ該處里正ヨリ其近傍ノ人家ニ安著セシムヘシ若シ需用  
ノ物品アラハ官ヨリ辨給シ後日其入費ヲ完清スヘシ

第十款

朝鮮國ハ未タ海外諸國ト通信セス日本國ハ年來諸國ト締盟友誼アルノ故ヲ以テ今後朝鮮國ノ沿海ヘ諸國ノ船舶風波ノ爲メ困難シ漂著スルアラハ朝鮮國人民理ニ於テ之ヲ愛恤セサル無シ該漂民本國ニ送還セラレンヲ望マハ朝鮮國政府ヨリ各港口駐留ノ日本國管理官ニ遞付シ本國ニ送還セシム該官員之ヲ領諾セサル無シ

第十一款

右十款ノ章程及之ニ添ヘタル通商規則共脩好條規ト同一ノ權ヲ有ス兩國政府遵行シテ違フ莫カル可シ然レトモ此各款中若シ兩國人民交際貿易上實地ノ障礙ヲ生シ改革セサル可カラサル事柄ヲ認ムル時ハ兩國政府其議案ヲ作り一箇年前報知シテ協議決定スヘシ  
大日本紀元二千五百三十六年明治九年八月廿四日

大朝鮮開國四百八十五年丙子七月初六日

理事官外務大丞宮本小一印

講修官議政府堂上趙寅熙印

朝鮮國議定諸港ニ於テ日本國人民貿易

規則

第一則

日本國商船日本國政府所管ノ軍艦及專  
ラ通信ニ用フル諸船ヲ除ク朝鮮國ニテ許可セシ諸港ニ  
入津ノ時船主或ハ船長日本國人民管理官ヨリ渡シタル證書ヲ三日  
ノ内ニ朝鮮國官廳へ差出スヘシ

所謂證書ナル者ハ船主所持ノ日本國船籍航海公證ノ類ヲ入港

ノ日ヨリ出港ノ日マテ管理官ニ差出シ置キ管理官ヨリ此證書  
類ヲ預リタル證票ヲ與フ是ヲ日本國現時施行ノ商船成規ト爲  
ス船主本港碇泊中此證票ヲ朝鮮國官廳へ差出シ日本國ノ商船  
タルヲ驗明ス

此時船主又其記錄簿ヲ差出スヘシ

所謂記錄ナル者ハ船名并ニ本船ヲ發スルノ地名積荷ノ噸數石  
數共ニ船船ノ容積船長ノ姓名乗組水夫ノ人員船客ノ姓名ヲ詳  
記シテ船主調印シタル者ナリ

此時船主又本船積荷ノ報單并船内所用雜物ノ簿記ヲ差出スヘシ

所謂報單ナル者ハ荷物ノ名或ハ其物質ノ實名并荷主ノ姓名記  
號番號ヲ詳記シテ記號番號ナキ荷物報知スルナリ此報單及其  
ハ此例ニアラス

他書類共何レモ日本國文ヲ用ヒテ漢譯文ヲ副ルコト無シ

第二則

日本國商船進港ノ積荷ヲ陸揚ケセント欲スル時ハ船主或ハ荷主ヨリ更ニ積荷ノ物名并元價斤量個數ヲ書記シ朝鮮國官廳ニ届出ヘシ官廳届書ヲ得ハ速ニ荷卸シ免狀ヲ渡スヘシ

第三則

船主或ハ荷主第二則ノ免狀ヲ得タルノ後其荷物ヲ陸揚ケスヘシ朝鮮國官吏若シ之ヲ驗查セント要スレハ荷主敢テ之ヲ拒ムコト無シ官吏亦注意驗查シテ之カ爲メ毀損ヲ致スコト無カレ

第四則

出港セントスル荷物ハ荷主第二則入港積荷届書ノ式ニ照シ船名并

荷物ノ品書個數ヲ書記シ朝鮮國官廳ニ届出ヘシ官廳ハ速ニ之ヲ許  
可シ出港荷物免狀ヲ渡スヘシ荷主免狀ヲ得ハ本船ニ積込ムヲ得  
ヘシ官廳若シ其荷物ヲ驗査セント要スレハ荷主敢テ之ヲ拒ムコト無シ

第五則

日本國商船出港ヲ要スル時ハ前日正午前ニ朝鮮國官廳ヘ報知スヘ  
シ官廳報ヲ得ハ嘗テ預リ置キタル證書ヲ還附シ出港免狀ヲ渡スヘシ  
日本國郵便船ハ成規ノ時限ニ拘ハラスシテ出港スルトモ必ス官廳  
ニ報知スヘシ

第六則

嗣後朝鮮國諸港口ニ於テ糧米及雜穀トモ輸出入スルヲ得ヘシ

第七則

港税

連桅檣ノ商船及蒸氣商船税金五圓

單桅檣ノ商船税金貳圓以上積荷物五百石

單桅檣ノ商船税金壹圓五十錢以下積荷物五百石

俱ニ附屬脚艇ヲ除ク

日本國政府ニ屬スル諸船舶ハ港税ヲ納レス

第八則

朝鮮國政府或ハ人民諸物品ヲ不問港場ノ口岸ニ運輸セント欲スル時ハ日本國商船ヲ雇入ル、コヲ得ヘシ雇主若シ人民ナレハ朝鮮國

政府ノ免狀ニ照シテ雇役スヘシ

第九則

日本國船隻若シ通商ヲ許サ、ル朝鮮國ノ港口ニ到リ私ニ買賣ヲ爲



スヲ該地方官見届タル時ハ最寄管理官ニ引渡スヘシ管理官ハ其所  
得ノ錢物一切ヲ取上ケテ朝鮮國官廳ニ交付スヘシ

第十則

鴉片煙販賣ヲ嚴禁ス

第十一則

兩國現ニ定ムル規則ハ今後兩國商民貿易形況ニ依リ各委員時ニ隨  
テ事情ヲ酌量シ商議改正スルヲ得ヘシ此カ爲メ兩國委員各調印シ  
テ即日ヨリ遵行セシム

大日本國紀元二千五百三十六年明治九年八月廿四日

理事官外務大丞宮本小一 印

大朝鮮國開國四百八十五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙 寅熙 印

(第百貳拾八號布告) 同

從前朝鮮國貿易ノ儀ハ對馬國人民ニ限取引イタサセ候處本年三月第三拾四號布告修好條規及今般第百貳拾七號布告修好條規附錄並貿易規則ノ趣旨ニ遵ヒ一般ノ人民同國釜山港へ渡航セント欲スル者ハ差許サレ候條海外行免狀又ハ航海公證ヲ使府縣廳又ハ其支廳ヨリ申受渡航可致候尤旅行先ヨリ急ニ渡航セント欲スル者ハ本人ヨリ其貫籍ヲ明白ニ書記シ旅行先地方ノ廳へ願出許可ヲ受ヘク候此旨布告候事

但釜山港ノ外開港ノ場所ハ追テ確定ノ上尙可布告事

(第百貳拾九號布告) 同

自今朝鮮國貿易品ハ輸出入品トモ日本國內地ニテ諸物品ヲ運送スル  
 ト同様ニ相心得輸出セント欲スル物品ハ開港場ハ税關其他ハ出船地  
 ノ區務所ヨリ荷物送り狀ニ檢印申受朝鮮國開港場派出ノ日本管理官  
 へ右送り狀差出朝鮮地方へ輸入濟ノ檢印ヲ申受日本國へ歸着ノ後最  
 前出船セン元地へ右送り狀可届返候朝鮮國ヨリ輸出シ來ル物品ハ送  
 リ狀へ管理官ノ檢印申受日本國各地へ陸揚セントスル節右檢印有之  
 送り狀ヲ其地税關又ハ區務所へ差示シタル上陸揚ケ可致候此旨布告  
 候事

● (第九拾七號達書) 同 使 府 縣

朝鮮國へ渡航ノ者免狀願受ノ儀今般第百貳拾八號布告ノ通相心得兼  
 テ外務省ヨリ海外行免狀航海公證トモ受取置願出ノ者へハ明治三年

正月十九日及同七年<sup>八</sup>第八拾八號布告ノ手續ヲモ參酌シ免狀證書ト  
モ相渡スヘク此旨相達候事

● (達書)

長 崎 縣

朝鮮國へ渡航ノ者へ免狀渡方ノ儀第九拾七號ヲ以テ相達候ニ付而ハ  
其縣嚴原支廳ハ朝鮮國接近ノ地ニ付他管下ノ者免狀願出ノ節ハ別シ  
テ差支無之様可取計此旨相達候事

○ 東 京 警 視 廳

政表編製ノ儀ニ付正院第五科ニ於テ毎月兩度主任ノ者集會右取調方  
熟議候ニ付其廳政表主任ノ者每會出頭可爲致此旨相達候事  
但日限ノ儀ハ同科へ可打合候事

○ 東 京 府

政表編製ノ儀ニ付正院第五科ニ於テ毎月兩度主任ノ者集會右取調方  
熟議候ニ付其府政表主任ノ者以下  
同前



任海軍大尉

海軍中尉  
從七位

山澄

直清

任海軍中尉

海軍少尉  
正八位

柏原

長繁

依願免本官

七等判事

水野

千波

同

同

安達

盛貞